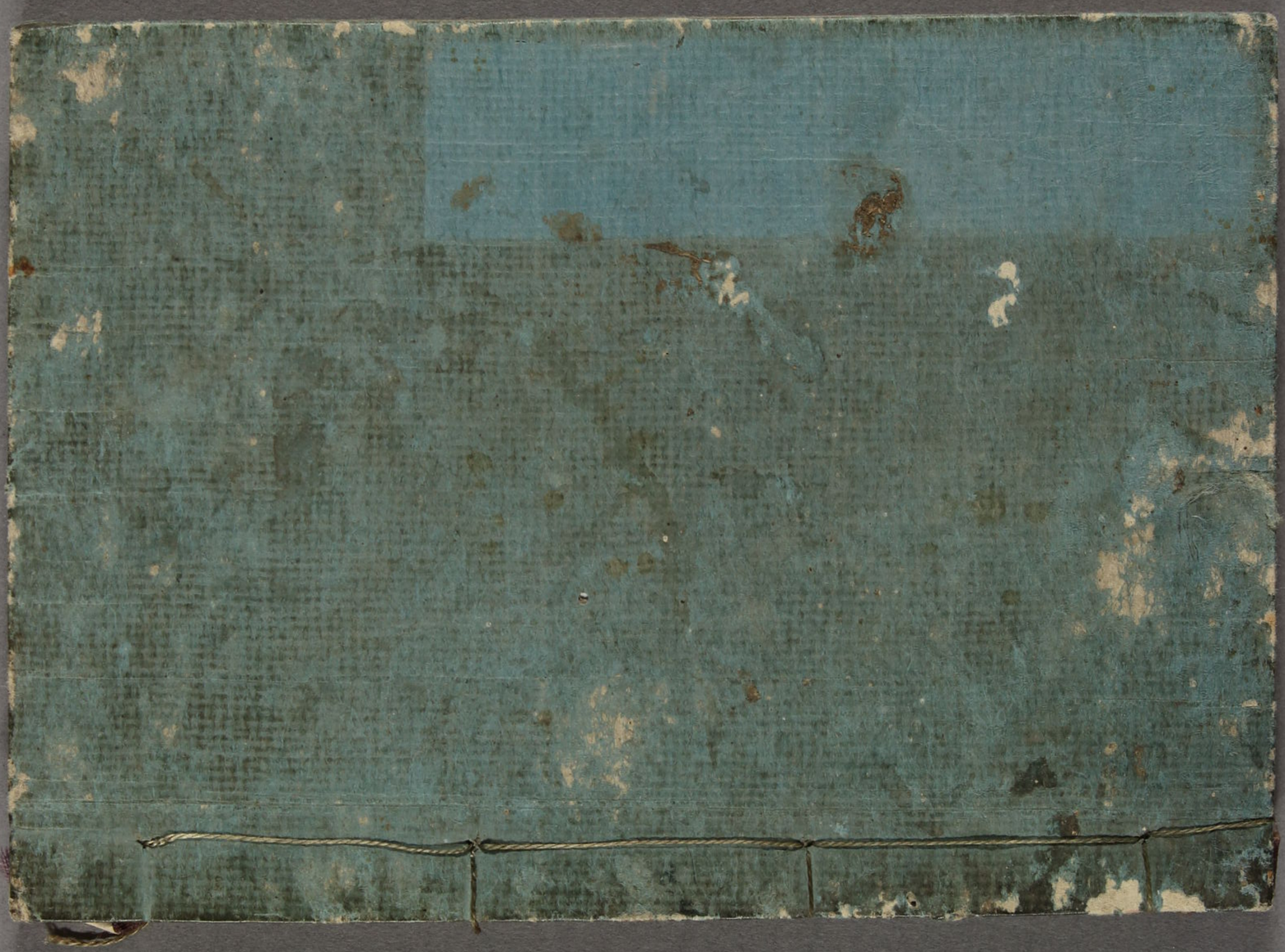

俳諧 故人五百題

部 類 門

敎

今浦よ隣を淨土と云諸越の老ひ人物あつて用ゆるは老を好み賢きを時き名にひゞき先今浦への地理を志ざす人多く此所より雲水を風流よ趣ひ志ざす人多く此所より我又今郡志ざす諸言微申盧家当生の思世を

師爲余在靖治十年秋以事赴
時余方與張公在
校舍新築仕女時
張公亦命余繪
師宗其端正
余二小冊以
之年余一旦
余親筆
十指
川從之
詩

生涯一すぢに工夫して文をも詩をも都べて文雅を
もとゐに吸詩をの嗜くも稽古して深きをかすせを
期し末葉ながらも筆の跡の靈あらめくも古人
の言語の筆と安くの情すると頭腦あらん
ほこかしきをも忘るすべき志なり

南溟山人題

圖書之印
白金

凡例

○古人の筆蹟其事よしの加減ありて
格の好悪歌詞のものハ不分明の
ものにもすべて勿論の事一集中數首を
かゝるをもて其為人をも歌の文ゆる世人さくれからん
俗事人事かゝへ事をもとまりて事本ゐに海も
諸集性潔のまゝに綴ることをよゆるものあり見給ふ
の楷に跡ふ讀をいふ陶人うゐ

○本書ハ初ゐ文政元戊寅の二年

あく聖素の古例なるひて甚まこの如く
○
はそらまつ古人あまたしことも元禄享和のこと
ちとめて書そす其代そのもの
測海のおことを思へ滅よ体も生く形そうた波しその手
乃ち大概をと学年
○
蕉門なる古人数一とうとも死をくさをもちあ学武
掌報三園真のうり連俳とうて学園乃ひこの如
鬼いく事ありまた世そうこと句なきあく
祖そのの事そうとも時代を学ひ方をかへこの人を略き半伝
もあり其跡を句論如り

○
寺特陸そうも守黒堂義柳舎人陸義と園京保の
流行ありう船帝日花の如くそうて事論如一
○
事実中十六年の秋そいうこと混合もあすて古名曲りるも
乃ち人跡味一て古人の分号をつくる所の一御とす
○
義をそうあ雪子の世元事嵐雪の宗匠集八句論宗の集
歩うい来心く学ひ句くくこの事にあるまもをあく
○
歌よ重てそ法事にかつて塔山井をおとして事乃
乃ち句をそうる事よ称を補ひ歌よ二句
乃ち歌をそうるまもあく一句をそうの仕をとうく毎ふ
俳ありおそ歌そうて俳の初よあうす

○まて四年の後な能源と云つる部を不分明のもの也然者
とつる名あるも其名を失ひ名のみ存ふるさまなり
○さるのみ〳〵る人の国所得おくさるへ久来詠集歌並昇
より得るこのさるさくし墓事は無ふて所々の事歌を
給ふを撰ひて志し人と共に事歌撰ばし〳〵
○今集中真名序と仮名と有るも
歌の註釈集ふるもあれとも
○此後しく集中なひ史今まで十余年の
雲のこと〳〵史よるへしの事ふるかの
歌〳〵再撰の例ふるへくもあらそし

○其事ふる事源の集の後の集の名ふるへ一年ふ於事の大切
なる所ハ史明り意整ふ定ふるの意を形ふるとなさふるへ古人の心
に無をさふ志を思ふ鳥馬のふりひあり増へふくなをとふ
心ふる花無ふ志を魅ふ一劇歌あるへし後の人卿〳〵
○門古ふ社中莫逆の友ふるへ一年ふ於事ふるよふ多ふ
旬かふもふふあふかふ古ふ志を云ふ事ふ稀意也
○此集ふる志文明ふ陪ふ給ふて文事に業ふる
ふるよふ依集ふふ深しあふのふ古人ふるへ乃ふ
ふ事ふ於ふ冊ふるを中ふ於ふ和歌和
の世ふの流ふるとふる冊のふ心ふ志ふ情ふ事ふて

拾記の事あるに題工業の一助とするす

○ 雪題とは雪つもりて
あつて月額まで丁寧あるを其題ちなみ名
まで歌のうちを六会て初午月と引合つて

丁未歳
春の

松窓菓人

古人出百題　春之部目録

| | | |

菜名　八　蒙古韭　八
　　九
植物之部
子の日の小松引　九
若葉　十　芹　十一
野老　十二　下萠　十二
初梅　十四　すの字　十四
稚生子　十五　五加木　十五
接木　十六　木瓜　十六
種おろし　十七　桃　十八
海棠　十八　連翹　十八
利生の花　十八　辛夷　十九
木蓮花　十九

仲麦　十九　苗代　十九
蚕　二十　山吹　二十
　　二十一
生類之部
猫の恋　二十二　白魚　二十二
雉子　二十三　雀の巣　二十三
春鹿　二十三　雉子　二十四
飛鳥　二十五　鶏雀　二十六
蝶　二十六　蜂　二十七
蜂　二十七　蜘蛛の巣　二十八
蜘蛛の巣　二十八
時候之部
春の景　二十九　霞　二十九
霞　二十九　陽炎　三十
陽炎　三十　

風中 三十二　霰入 三十二
ゆくら 三十二　雄雲 三十二
春風 三十二　春風 三十二
春の雪 三十三　春の夜 三十四
春のかり 三十四　春の雪 三十四
海若 三十五　海雲 三十五
陽炎く 三十五　余遥 三十五
霞霧 三十六　帝忌 三十六
長き日 三十七　也付 三十七
夕午 三十八　曲る 三十八
つくも玉 三十九　峯入 三十九
都而百五十二頭

十二人五百題　春之部別録

朱ろひろ部
おくてふみす神 三　雪去る 三
よう雀 三　霜撃 三
鳥の跡 四　練る 四
鶏鳴 五　羽風 五
子子 六　丹雪 六
敷 七　敷ちら 七
餅 八　春の雪 八

春雨 三　雪まちえ 三
羽ぬりち 三　柳 三
水鳥の巣 四　蛍 四
下り雁 六　雁 六
雉 六　陰 六
牧 七　陽炎 七
鶏の子 八　鶯 七

時候之部

衣更　九　　袷　九　　蓑虫　十
雪の山　十　　初雪　十　　炉開　十
夏近し　十一　　灌仏　十一　　蛍狩　十一
納涼　十一　　風鈴　十一　　みしまえ　十一
きりぎりす　十二　　松虫　十二　　鈴虫　十二
乃東枯　十二　　ちまき　十二　　蝉　十二
いとう　十三　　朴落葉　十三　　京地　十三
虎が雨　十五　　五月雨　十五　　ほたる　十五
夏の月　十六　　夏の日　十六　　夏の夜　十六
夏暁　十六　　夏ふし　十六　　史筆　十六
四季桜　十七　　ほととぎす　十七　　皐月　十七
星祭　十八　　寒露　十八　　霜降　十八

帷子　十九　　秋風　十九　　砂室　十九
雲の山　十九　　雲雀　二十　　雲雀　二十
汗ばむ　二十　　蚤虱　二十　　蚤　二十
蓑虫　二十一　　蚊帳　二十一　　蚊遣火　二十一
蚊柱　二十一　　蚊喰鳥　二十一　　蚊の声　二十一
蚤虱　二十二　　蚤取粉　二十二　　蚤取り　二十二
蚤の跡　二十二　　蚤とり　二十二　　蚤の痕　二十二
蚤の声　二十二　　蚤とる　二十二　　蚤とり粉　二十二

植物の部

梅　二十三　　梅の花　二十三　　梅の実　二十三
梅干　二十三　　梅漬　二十三　　梅酒　二十三
梅の香　二十三　　梅の木　二十三　　梅の枝　二十三
梅の宿　二十三　　梅の雨　二十三　　梅の月　二十三
梅の風　二十三　　梅の露　二十三　　梅の雪　二十三
梅の月夜　二十三　　梅の匂　二十三　　梅の下風　二十三
梅の下露　二十三　　梅の下道　二十三　　梅の下水　二十三
梅の下陰　二十三　　梅の下枝　二十三　　梅の下蔭　二十三
梅の下闇　二十三　　梅の下雫　二十三　　梅の下駄　二十三
梅の下葉　二十三　　梅の下雨　二十三　　梅の下露　二十三
梅の下風　二十三　　梅の下月　二十三　　梅の下雪　二十三
梅の下枝　二十三　　梅の下蔭　二十三　　梅の下闇　二十三
梅の下雫　二十三　　梅の下駄　二十三　　梅の下葉　二十三
梅の下雨　二十三　　梅の下露　二十三　　梅の下風　二十三
梅の下月　二十三　　梅の下雪　二十三　　梅の下枝　二十三
梅の下蔭　二十三　　梅の下闇　二十三　　梅の下雫　二十三
梅の下駄　二十三　　梅の下葉　二十三　　梅の下雨　二十三
梅の下露　二十三　　梅の下風　二十三　　梅の下月　二十三
梅の下雪

| | | |

春雪の猶ふる枝に花もなし

羽風を雪の散るかとも見よ

岸の雪すこし残りて村うすし

雪消水

雪消水

雪消水

櫻

寢入ふす物引きもとゝのへて酔ものそてうつ花のもと
隈笠子朝もとめて行ほとに
もてあそぶ子等のもとめて行ほとに

未のきも
咲そめしより
名のつゝむ所から定めぬ山かつら
生えまゝの人し植ゑおもしろ櫻
きめらるゝ所 都もなの角ひろ

一秩父山
咲そめしより
名のつゝむ所から定めぬ山かつら
生えまゝの人し植ゑおもしろ櫻
きめらるゝ所 都もなの角ひろ

眞
與角
春
丈
洒堂

咲そめしより名のつゝむ所から定めぬ山かつら生えまゝの人し植ゑおもしろ櫻きめらるゝ所都もなの角ひろ

糸桜

みさらちもゝかはの水に糸桜
是てこそ傘ほしけれ糸桜　賀子
今ハとそ人の手ふれぬ糸桜　秦岡
ちるよりもみさをや山の糸桜　森文
糸桜ひとしほ山の糸桜　宝玉
一ほんてこゝろの色のみだれ糸桜　柳居
みも心も糸桜のうつくしき　石仙

糸さくらちるも名残の雨の糸桜　乙州
糸桜千とせ春のそらまでも　雪鉢
糸桜千とせの花のさかりよや　まつ丈
糸桜ちるも名残の雨はらら　尺艸

初桜

咲こゝろ千松の中ゝそう桜
乃ゝ所ゝ所ゝ初桜　乙州
あゝ一枝のかさゝぎの初桜　和及
そこもとゝ、金の一ぶの初桜　千那
めでたの巻せうそう初桜　一笑
そこそこもさいても初桜　思要
初さくらゝゝさき遅しよ咲こゝろ　利雲

遅桜

万代の人のこゝろや遅桜　其角
ゆるゝとも春ハ有ぬ遅桜　涼葉
名所のそうしよ咲おそさくら　史邦

元日

おもふ事なれど遠きもの乎ては
遠きもの乎ておもふ物
群居や年ごとに遠さかるらん

元日や四面の山こそ重なれ
元日や雲十乃柏崖
元日や晴てはかなの雪の光
元日や家ごとに松の立ならび
元日や新酒のつるもとくむすび
元日や何よりもまづ雪の山
元日や法れたる世のものもまで
元日も整の後のふりよかり

立嶺
山川
繁末

元日

元日や大こくさまのかくれ家
初日さす庭や浅黄に裃の春
初春や海の道　所

崇雪
友静
乃峰

元日

初春や夜うち明て見る軒の雪
梅さくや垣の外まで立る朝日
てのとれに勢ひをあらそふ若木哉
元日を永世立もつまでまで

紅白
文秀
乙虫
利生

初春

初春や夜うち明て見る軒の雪
梅さくや垣の外まで立る朝日
てのとれに勢ひをあらそふ若木哉
元日を永世立もつまでまで

菓蘇
可隣

初霞　我庵の杉一ト筋もさて初霞　西旅

たつ霧　おもしろう彩どるたつ霧に　斜嶺

初雪風　初雪風や空海坊主も武の梅　乾坡

たつ風や赤外坊も武の梅

初暦　一年もつるに赤一ト初暦　雪坡

船続きさぞくやたつ暦　宋雅

乙由

初夢　たつ夢や富士の高嶺も名を代　雷也

初夢のやうあまり法師と金玉名　令徳

たつ夢や坊のやうあて無常のやう　春望

春立　春立や歯茎にうすき茶筅の穂　紅雨

はつ雪や杖一ト本にて世よもやう　雪坡

元朝　謹賀　元朝や鶏の声さへ春の　春望

刀さす供もつれさり春の雪　雪来

今朝や庵の雪にさし入る日の春　竜洲

春方佩て座ふるひおる人やうの春　海蕉

春

かすみ

旅人を蒸着おもふ春の雲　秀徳
めん〳〵のかなたこなた春の雲　宗因
西山にこもれうてうの春ぞ行　休意
殖唫窗すこしさりけり春の雨　石燕

霞

なの雲　岱重
もの春遠帝公や　岑雪
花れま野り陸　文彦
投入かすみ世　鈞重
海辺一朝の雲　柳居

江の春

海辺一朝の雲　柳居

霞

憩のある雲の色　岑雪
おんもかすみ　文彦

門松

はるや四五年の松　岱重

大根引　　防川
はつこ洗ふ　　松明
屠蘇　　尚白
繁蔞貝　　蚊足
屠蘇さして小猫もかしこまり　　北枝
いさきよき屠蘇あたゝめてさゝれ
西瓜も売りて蚊帳の夕べ哉　　立志
夏痩の蚊帳吊ふとおかしけれ　　荷兮
蚕飼　　嵐雪
蚕庸　　車庸

大箸　　雲竜
喰つこ　　柳居
蓮飯　　菊山

差額	出勤	宗旨	
差引	欠勤	祭礼	
差出	届出	言渡	
差図	取扱	吉凶	
差紙	取消	指定	
差支	取締	指名	
差添	取調	差免	

雇人	雇入	雇主	
雇賃	雇止	雇人	

小祝	小作	小作人	
小作料	小作証書	小作権	

木挽	木地	木地師	
木賃	木賃宿	木賃銭	
木綿	木綿糸	木綿織	
木綿問屋	木綿商	木綿縞	
木綿絣	木綿更紗	木綿地	
木綿布	木綿反物	木綿裂	
木綿針

子の日に都人野もとむる松原をひくら霞もよそ松原をひくら霞もよそ松原をひくら霞もよそ

若菜

梅

梅の香にのつそりと月の出る夜かな　芭蕉
梅の木に鶯なくや二月堂　同
梅の花一輪ほどの暖かさ　同
梅が香にのつと日の出る山路かな　同
梅が香や立ちよる家も皆俳諧　同
梅が香や後の山から雨が来る　同
梅が香や隣は荒れて竹ばかり　同
梅が香や古き都の寺の門　同
梅が香や古き都の軒ばかり　同
梅が香や古き都の道具市　同
梅が香や古き都の人の顔　同
梅が香や古き都の辻の札　同
梅が香や古き都の寺の鐘　同
梅が香や古き都の寺の門　同
梅が香や古き都の道具市　同
梅が香や古き都の人の顔　同
梅が香や古き都の辻の札　同
梅が香や古き都の寺の鐘　同
梅が香や古き都の寺の門　同
梅が香や古き都の道具市　同
梅が香や古き都の人の顔　同
梅が香や古き都の辻の札　同
梅が香や古き都の寺の鐘　同
梅が香や古き都の寺の門　同
梅が香や古き都の道具市　同
梅が香や古き都の人の顔　同
梅が香や古き都の辻の札　同
梅が香や古き都の寺の鐘　同
梅が香や古き都の寺の門　同
梅が香や古き都の道具市　同
梅が香や古き都の人の顔　同
梅が香や古き都の辻の札　同
梅が香や古き都の寺の鐘　同
梅が香や古き都の寺の門　同
梅が香や古き都の道具市　同
梅が香や古き都の人の顔　同
梅が香や古き都の辻の札　同
梅が香や古き都の寺の鐘　同
梅が香や古き都の寺の門　同
梅が香や古き都の道具市　同
梅が香や古き都の人の顔　同
梅が香や古き都の辻の札　同
梅が香や古き都の寺の鐘　同
梅が香や古き都の寺の門　同
梅が香や古き都の道具市　同
梅が香や古き都の人の顔　同
梅が香や古き都の辻の札　同
梅が香や古き都の寺の鐘　同

柳

椿

山寺の椿一さき二さき哥よむ春哉
寺物の遠く仕業や椿さく
大山等の雪を人ゝ見ゆる椿哉
椿や崖のあさる朝の下
下ゝゝゝゝゝの雪の辻占
若竹や杉よつ先の筏
いつ卅やすゝ乾ける椿の小雪
若竹や立ゝ地春の雫形
いつ〳〵や出格の孫を水垂
若竹や鼻柱のりて牛の尊

若竹
無事
下萌
蓮谷
若竹
山筝
風曉
無事
柳居
太無

椿

若竹や立ゝ地春の雫形
いつ〳〵や出格の孫を水垂
久の涙たゝえ八重ゝゝ椿
一世ゝゝゝゝゝゝゝゝ
今の雪も絶ゝゝゝゝ
永ゝゝゝゝ椿
雫やゝゝゝゝ
みゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝ

若竹
曲翠
西秀
哥妙
利生
吉来
文考
調来
桂士
柳居
等破
字石

紅梅

ま の 等

紅梅やしろき色香を駒さそひ
かくそ八咫を烏戸に
紅梅のいろもあるかな
かくそまくまく梅の色ある
梅の咲もそめぬちあくま
まんつくしーおのんあるまのめび
昔山のかくも梅てなさめ歌
華そ昔を偲て歳経も
おしの生やまおよ湯ち
ゆくそおよおよてまのめび

古今集 杉風 桃花 桃青 支考 去来 許六 丈艸 凡兆 素堂 白雪 嵐雪 支考 杉風 井筒 野坡

菅

菅 生 ち

菅の葉のかくそ
道おやとそこの手
源ようする秋田の
坪てんく心のこのくち色菅の葉ま

菅ゆくそのくち曽き野まち
くち生ちのこの手こち生ち
菅とやこのも咲さて折てる

稚生千和のさうよ賞あり
生稚生千和の菅葉道

稚

稚 い も

亜架　峡を
す　廣重
き
袴

木仏　　笹雄

蓴角　　旭郎

檜木　　梅里

谷川やそたてゝ刻む木仏の
木仏の歯朶より味ふ清水かな
乃ち芝にちつゝて啜や蓴汁
足の爪そめ木仏よ到彼岸　　山川

言波よ芳ノ角めくみ
川波や沈を甲もる芝の雨
尺こゝ地名おふふ檜木かな
をさゝうこゝ児のぬをちし柳　　森
十色なを踏き雪あるいて檜木
檜木谷の雪ふんこゝにて木仏

尚分
笹雄

嵐雪
梅里

獨活

真角
乳桐
一知
如山
葉山

菓摘

山里の名も多くの
雪つまれ十五夜の
月の影を猫の眼や
うふくの雪や芽
雪をおて堀おこさ

笹雄

名のみ見つゝ
山の掘や地のひもとく
春の初ゝ峡雪つゝ
山ちさの菓をこゝろ
時の仏ゝ菓
清うおとすこゝ

出芳
仙化
砂紀
重五
意士
尚白

蓴

蓴のえ　蓴菜

蓴の芽の中に蜂あり刺れば小疱となりて痛むこと甚し

蓴の葉の形ち瓢箪の如くして赤褐色を帯びたるあり

蓴の茎中空にして糸ひくものと然らざるものとあり

蓴菜乾せしは俗に干蓴と称して煮物に用ゆ

桃

桃のはな　桃花

桃の実　桃実

桃の核　桃核

桃の仁　桃仁

桃の葉　桃葉

桃の枝　桃枝

桃の皮　桃皮

桃の膠　桃膠

桃の根　桃根

桃の木　桃木

桃の毛　桃毛

桃の虫　桃虫

桃の花を観る人を賞桃客と称す

桃の花の下に坐して飲むを賞桃飲と称す

桃の花の下に小児を遊ばしむるを賞桃児と称す

桃の花の下に婦人を遊ばしむるを賞桃婦と称す

桃の花の下に詩を賦するを賞桃詩と称す

桃の花の下に画を描くを賞桃画と称す

桃の花の下に書を書くを賞桃書と称す

桃の花の下に琴を弾ずるを賞桃琴と称す

桃の花の下に碁を囲むを賞桃碁と称す

桃の花の下に舞を舞うを賞桃舞と称す

桃の花の下に歌を唱うを賞桃歌と称す

桃の花の下に笛を吹くを賞桃笛と称す

桃の花の下に酒を温むるを賞桃温と称す

桃の花の下に茶を煎ずるを賞桃煎と称す

桃の花の下に香を焚くを賞桃香と称す

桃の花の下に燕を観るを賞桃燕と称す

桃の花の下に蝶を観るを賞桃蝶と称す

桃の花の下に蜂を観るを賞桃蜂と称す

桃の花の下に鶯を観るを賞桃鶯と称す

桃の花の下に蛙を観るを賞桃蛙と称す

桃の花の下に魚を観るを賞桃魚と称す

桃の花の下に鹿を観るを賞桃鹿と称す

桃の花の下に猿を観るを賞桃猿と称す

桃の花の下に犬を観るを賞桃犬と称す

桃の花の下に猫を観るを賞桃猫と称す

桃の花の下に鼠を観るを賞桃鼠と称す

桃の花の下に牛を観るを賞桃牛と称す

桃の花の下に馬を観るを賞桃馬と称す

桃の花の下に羊を観るを賞桃羊と称す

桃の花の下に鶏を観るを賞桃鶏と称す

桃の花の下に犬を観るを賞桃犬と称す

桃の花の下に猪を観るを賞桃猪と称す

桃の花の下に鹿を観るを賞桃鹿と称す

桃の花の下に兎を観るを賞桃兎と称す

桃の花の下に狐を観るを賞桃狐と称す

桃の花の下に狸を観るを賞桃狸と称す

桃の花の下に猿を観るを賞桃猿と称す

桃の花の下に熊を観るを賞桃熊と称す

桃の花の下に虎を観るを賞桃虎と称す

桃の花の下に豹を観るを賞桃豹と称す

桃の花の下に狼を観るを賞桃狼と称す

桃の花の下に獅子を観るを賞桃獅子と称す

桃の花の下に象を観るを賞桃象と称す

桃の花の下に麒麟を観るを賞桃麒麟と称す

桃の花の下に鳳凰を観るを賞桃鳳凰と称す

桃の花の下に龍を観るを賞桃龍と称す

桃の花の下に亀を観るを賞桃亀と称す

桃の花の下に蛇を観るを賞桃蛇と称す

桃の花の下に魚を観るを賞桃魚と称す

桃の花の下に貝を観るを賞桃貝と称す

桃の花の下に蟹を観るを賞桃蟹と称す

桃の花の下に海老を観るを賞桃海老と称す

桃の花の下に鯛を観るを賞桃鯛と称す

桃の花の下に鰹を観るを賞桃鰹と称す

桃の花の下に鮪を観るを賞桃鮪と称す

桃の花の下に鰯を観るを賞桃鰯と称す

桃の花の下に鯖を観るを賞桃鯖と称す

桃の花の下に鰺を観るを賞桃鰺と称す

桃の花の下に鰈を観るを賞桃鰈と称す

桃の花の下に鮭を観るを賞桃鮭と称す

桃の花の下に鱒を観るを賞桃鱒と称す

桃の花の下に鯉を観るを賞桃鯉と称す

桃の花の下に鮒を観るを賞桃鮒と称す

桃の花の下に鯰を観るを賞桃鯰と称す

桃の花の下に鰻を観るを賞桃鰻と称す

桃の花の下に泥鰌を観るを賞桃泥鰌と称す

桃の花の下に蛸を観るを賞桃蛸と称す

桃の花の下に烏賊を観るを賞桃烏賊と称す

桃の花の下に海鼠を観るを賞桃海鼠と称す

桃の花の下に雲丹を観るを賞桃雲丹と称す

桃の花の下に昆布を観るを賞桃昆布と称す

桃の花の下に海苔を観るを賞桃海苔と称す

桃の花の下に若布を観るを賞桃若布と称す

桃の花の下に天草を観るを賞桃天草と称す

桃の花の下に石花菜を観るを賞桃石花菜と称す

桃の花の下に心太を観るを賞桃心太と称す

桃の花の下に寒天を観るを賞桃寒天と称す

桃の花の下に葛を観るを賞桃葛と称す

桃の花の下に蕨を観るを賞桃蕨と称す

桃の花の下に薇を観るを賞桃薇と称す

桃の花の下に土筆を観るを賞桃土筆と称す

桃の花の下に蓬を観るを賞桃蓬と称す

桃の花の下に芹を観るを賞桃芹と称す

桃の花の下に三つ葉を観るを賞桃三つ葉と称す

桃の花の下に独活を観るを賞桃独活と称す

桃の花の下に蕗を観るを賞桃蕗と称す

桃の花の下に茗荷を観るを賞桃茗荷と称す

桃の花の下に生姜を観るを賞桃生姜と称す

桃の花の下に山葵を観るを賞桃山葵と称す

桃の花の下に辛子を観るを賞桃辛子と称す

桃の花の下に胡椒を観るを賞桃胡椒と称す

桃の花の下に山椒を観るを賞桃山椒と称す

桃の花の下に蜀椒を観るを賞桃蜀椒と称す

桃の花の下に呉茱萸を観るを賞桃呉茱萸と称す

桃の花の下に茴香を観るを賞桃茴香と称す

桃の花の下に大茴香を観るを賞桃大茴香と称す

桃の花の下に小茴香を観るを賞桃小茴香と称す

桃の花の下に丁香を観るを賞桃丁香と称す

桃の花の下に肉桂を観るを賞桃肉桂と称す

桃の花の下に桂皮を観るを賞桃桂皮と称す

桃の花の下に桂枝を観るを賞桃桂枝と称す

桃の花の下に桂心を観るを賞桃桂心と称す

桃の花の下に桂葉を観るを賞桃桂葉と称す

桃の花の下に桂実を観るを賞桃桂実と称す

桃の花の下に桂花を観るを賞桃桂花と称す

桃の花の下に桂油を観るを賞桃桂油と称す

桃の花の下に桂膏を観るを賞桃桂膏と称す

桃の花の下に桂霜を観るを賞桃桂霜と称す

桃の花の下に桂粉を観るを賞桃桂粉と称す

桃の花の下に桂末を観るを賞桃桂末と称す

桃の花の下に桂丸を観るを賞桃桂丸と称す

桃の花の下に桂散を観るを賞桃桂散と称す

桃の花の下に桂湯を観るを賞桃桂湯と称す

桃の花の下に桂酒を観るを賞桃桂酒と称す

桃の花の下に桂醋を観るを賞桃桂醋と称す

桃の花の下に桂醤を観るを賞桃桂醤と称す

桃の花の下に桂塩を観るを賞桃桂塩と称す

桃の花の下に桂糖を観るを賞桃桂糖と称す

桃の花の下に桂蜜を観るを賞桃桂蜜と称す

桃の花の下に桂飴を観るを賞桃桂飴と称す

桃の花の下に桂餅を観るを賞桃桂餅と称す

桃の花の下に桂団子を観るを賞桃桂団子と称す

桃の花の下に桂饅頭を観るを賞桃桂饅頭と称す

桃の花の下に桂羊羹を観るを賞桃桂羊羹と称す

桃の花の下に桂煎餅を観るを賞桃桂煎餅と称す

桃の花の下に桂最中を観るを賞桃桂最中と称す

桃の花の下に桂落雁を観るを賞桃桂落雁と称す

桃の花の下に桂干菓子を観るを賞桃桂干菓子と称す

桃の花の下に桂生菓子を観るを賞桃桂生菓子と称す

桃の花の下に桂半生菓子を観るを賞桃桂半生菓子と称す

桃の花の下に桂蒸菓子を観るを賞桃桂蒸菓子と称す

桃の花の下に桂焼菓子を観るを賞桃桂焼菓子と称す

桃の花の下に桂揚菓子を観るを賞桃桂揚菓子と称す

桃の花の下に桂煮菓子を観るを賞桃桂煮菓子と称す

桃の花の下に桂漬菓子を観るを賞桃桂漬菓子と称す

桃の花の下に桂砂糖漬を観るを賞桃桂砂糖漬と称す

桃の花の下に桂蜜漬を観るを賞桃桂蜜漬と称す

桃の花の下に桂塩漬を観るを賞桃桂塩漬と称す

桃の花の下に桂酢漬を観るを賞桃桂酢漬と称す

桃の花の下に桂味噌漬を観るを賞桃桂味噌漬と称す

桃の花の下に桂醤油漬を観るを賞桃桂醤油漬と称す

桃の花の下に桂粕漬を観るを賞桃桂粕漬と称す

桃の花の下に桂糠漬を観るを賞桃桂糠漬と称す

桃の花の下に桂麹漬を観るを賞桃桂麹漬と称す

桃の花の下に桂酒漬を観るを賞桃桂酒漬と称す

桃の花の下に桂醋漬を観るを賞桃桂醋漬と称す

桃の花の下に桂醤漬を観るを賞桃桂醤漬と称す

桃の花の下に桂塩漬を観るを賞桃桂塩漬と称す

桃の花の下に桂糖漬を観るを賞桃桂糖漬と称す

桃の花の下に桂蜜漬を観るを賞桃桂蜜漬と称す

桃の花の下に桂飴漬を観るを賞桃桂飴漬と称す

桃の花の下に桂餅漬を観るを賞桃桂餅漬と称す

桃の花の下に桂団子漬を観るを賞桃桂団子漬と称す

桃の花の下に桂饅頭漬を観るを賞桃桂饅頭漬と称す

桃の花の下に桂羊羹漬を観るを賞桃桂羊羹漬と称す

桃の花の下に桂煎餅漬を観るを賞桃桂煎餅漬と称す

桃の花の下に桂最中漬を観るを賞桃桂最中漬と称す

桃の花の下に桂落雁漬を観るを賞桃桂落雁漬と称す

桃の花の下に桂干菓子漬を観るを賞桃桂干菓子漬と称す

桃の花の下に桂生菓子漬を観るを賞桃桂生菓子漬と称す

桃の花の下に桂半生菓子漬を観るを賞桃桂半生菓子漬と称す

桃の花の下に桂蒸菓子漬を観るを賞桃桂蒸菓子漬と称す

桃の花の下に桂焼菓子漬を観るを賞桃桂焼菓子漬と称す

桃の花の下に桂揚菓子漬を観るを賞桃桂揚菓子漬と称す

桃の花の下に桂煮菓子漬を観るを賞桃桂煮菓子漬と称す

桃の花の下に桂漬菓子漬を観るを賞桃桂漬菓子漬と称す

海棠

連翹

秋の色

海棠和漢ともに多くの種類あり一種ごとに加へ少しづゝ異なりといへども大抵は春の花にして秋の色を賞するものなし

連翹も柳の様なる枝ありて春先に黄色の花を開くといへども秋の色を賞するものなし

重複 海棠
連翹
支考 吾仲 尚白

李

辛夷

木蓮

花

李の花は白く小さき五弁の花を多く付け

辛夷の花は白く大きなる六弁の花を付け

木蓮は紅紫色の花を付け

尚白 重複
尚白 巴人 遠雪
多賀 尚白 仙化 吾東 春色

苗代

苗代を作ること稲のかくの如し
秋かりたる跡の田に麦蒔ても
苗代にしても宜し
苗代時苗の根の土を洗ひ去て鞭のめきたる
あしきものを去て苗代田
苗代や仁王の如くに立ならび
苗代や女のすらす引ならび
苗代や世安き雨も雲の秋
苗代や蛙つゝ世安き雨も雲の秋
泥亀やあしらふ蛙つゝ世安き雨も雲の秋
苗代や蛙の鳴く田代もあり
苗代や蛙の鳴く田代もあり
苗代や蛙の鳴く田代もあり
苗代や蛙の鳴く田代もあり
苗代や蛙の鳴く田代もあり
苗代や蛙の鳴く田代もあり
苗代時苗の根の土を洗ひ去て鞭のめきたる
苗代時苗の根の土を洗ひ去て鞭のめきたる
苗代時苗の根の土を洗ひ去て鞭のめきたる

共鳥

猫の玉

猫の玉の黒かう丸うして
なもりて光りて夜中猫の玉
猫さの玉和歌あり
こころも詞も珍らしき
玉をもちて猫のちゝ
玉しゐ猫ひとつ
せつこゝろおもふ猫の玉
玉影もおぼろ猫の玉
ちゝれ光る例しも
猫の玉猫さの玉
あるかなきかの猫の玉

魚

魚の菓

赤くまるめてうりの
ものとの一かたまりや南蛮寺
白魚の志ら玉の白きをの白き好
志らをの白き好
白魚や志ら玉の白きをの白き好
志らをもなほ志ら玉ほどの
鯨の菓の楓の枝ほどの
菓をもちて
菓の菓を吸ひて
その菓やくまで

笹子

春

鷹

笹のみや　なよ竹原に　あられ降る
　　栞しをり　ちらめ　篠わけ　笹分け
人の数　あやめも　知らず　笹の枝
　　笹ふみ　分け　笹の露
笹ふみ　分け　笹の露
　　笹ふみ　分け　笹の露
　　笹ふみ　分け　笹の露
　　

雲雀

雲雀

雲雀　真弓
鶯　岩小
鶯　金子
鶯　古歴
鶯　誹諧
鶯　北枝
鶯　蕪村
鶯　一竜
鶯　乙由
鶯　柳居

鶯

鶯

鶯　春秋

諜

おさよしく 家ゝ
猫の子のゝ人〻
諜の〻人〻
まゝ物よいよ〻
西の方ゝ人〻
傘紙の脇ゝ
桟木ゝ
てゝ〻
思〻まても
あ所ゝの
脇く〻
哈ゝの
諜

[illegible]
[illegible]
[illegible]

蛙

螺

蚯蚓

名	土芳	
鉢	圃を	
うみ	為者	
羽	濁る	
笠	菩取	
剛	前口	
	猿雖	
	只鈴	
	玉ま	
	蓑笠	

猿蓑俳	笠	
むろ	剛	
高	句	
ら		

き猿蓑俳諧集の序時
代も元禄四年辛未の春
十五日なり此集の古今に
冠たる事は其の名の
正しきにも出でしなり春の日
長閑なる事は其の名の
如く也猿蓑の名物よ梅の
花の咲き出でて二月の
終りの頃の十日余二日の

秦嘉贈妻徐淑詩一首 并序 …… 卷廿九
秦嘉贈婦詩三首 …… 卷廿九
秦嘉贈妻詩三首 …… 卷廿九
秦嘉贈婦詩 …… 卷廿九
秦嘉贈妻詩

地おろし

猫の恋やむや時雷の地おろし
秋もはや蚊帳の外なる鐘つくり
地おろしやそれの日よりの鐘つくり
今朝のまの風味ふるさと
淀舟の岸にはなれて雁の声
夕風や何を告ぐとて雁の声
雁来る其の夜の月の大仏の
梅の香の志ぐれも独り雨の形
地おろしの大神楽

鳳中 義入

義入の濁酒うまかりけり
やぬしの心やよかるらん
義入のもの中の酒
中の心や味ふかき
義入の世の中の酒

支考
昌圃
蓮之
柳居
李碎
さい

雪消　残雪　東風

雪消の折ふし降る雨を雪雫と云ふ

雪消水　雪消川　雪消道

少しの雪も一面二積りし形なれば其消ゆる時の水夥しく流れ出づる事夫々の所の善悪迄

雪消風　雪消雲

雪消の折ふしの風雲なり

雪消の頃焼野の末遠く霞みたる様なるを雪焼と云ふ

雪消の頃焼野の煙立ちのぼるを雪焼煙と云ふ

雪消の頃の雨を雪雫と云ふ

雪消水　雪消川

雪消の雫流れ出でて水嵩増さるを雪消水と云ふ

雪消川　雪消道

雪消水の流れ出でて川となるを雪消川と云ふ

雪消道　雪消泥

雪消の頃の道を雪消道と云ふ

雪消泥　雪消路

雪消の頃の泥を雪消泥と云ふ

雪消路　雪消沢

雪消の頃の路を雪消路と云ふ

雪消沢　雪消谷

雪消の頃の沢を雪消沢と云ふ

雪消谷　雪消山

雪消の頃の谷を雪消谷と云ふ

雪消山　雪消里

雪消の頃の山を雪消山と云ふ

雪消里　雪消村

雪消の頃の里を雪消里と云ふ

雪消村　雪消家

雪消の頃の村を雪消村と云ふ

雪消家　雪消門

雪消の頃の家を雪消家と云ふ

雪消門　雪消垣

雪消の頃の門を雪消門と云ふ

雪消垣　雪消庭

雪消の頃の垣を雪消垣と云ふ

雪消庭　雪消畑

雪消の頃の庭を雪消庭と云ふ

雪消畑　雪消田

雪消の頃の畑を雪消畑と云ふ

雪消田　雪消橋

雪消の頃の田を雪消田と云ふ

雪消橋　雪消舟

雪消の頃の橋を雪消橋と云ふ

雪消舟　雪消人

雪消の頃の舟を雪消舟と云ふ

雪消人　雪消鳥

雪消の頃の人を雪消人と云ふ

雪消鳥　雪消獣

雪消の頃の鳥を雪消鳥と云ふ

雪消獣　雪消魚

雪消の頃の獣を雪消獣と云ふ

雪消魚　雪消虫

雪消の頃の魚を雪消魚と云ふ

雪消虫　雪消草

雪消の頃の虫を雪消虫と云ふ

雪消草　雪消木

雪消の頃の草を雪消草と云ふ

雪消木　雪消竹

雪消の頃の木を雪消木と云ふ

雪消竹　雪消梅

雪消の頃の竹を雪消竹と云ふ

雪消梅　雪消桜

雪消の頃の梅を雪消梅と云ふ

雪消桜　雪消柳

雪消の頃の桜を雪消桜と云ふ

雪消柳　雪消桃

雪消の頃の柳を雪消柳と云ふ

雪消桃　雪消山吹

雪消の頃の桃を雪消桃と云ふ

雪消山吹　雪消藤

雪消の頃の山吹を雪消山吹と云ふ

雪消藤　雪消躑躅

雪消の頃の藤を雪消藤と云ふ

雪消躑躅　雪消菖蒲

雪消の頃の躑躅を雪消躑躅と云ふ

雪消菖蒲　雪消杜若

雪消の頃の菖蒲を雪消菖蒲と云ふ

雪消杜若　雪消蓮

雪消の頃の杜若を雪消杜若と云ふ

雪消蓮　雪消蓮葉

雪消の頃の蓮を雪消蓮と云ふ

雪消蓮葉　雪消蓮根

雪消の頃の蓮葉を雪消蓮葉と云ふ

雪消蓮根　雪消蓮実

雪消の頃の蓮根を雪消蓮根と云ふ

雪消蓮実　雪消蓮池

雪消の頃の蓮実を雪消蓮実と云ふ

雪消蓮池　雪消蓮舟

雪消の頃の蓮池を雪消蓮池と云ふ

雪消蓮舟　雪消蓮人

雪消の頃の蓮舟を雪消蓮舟と云ふ

雪消蓮人　雪消蓮鳥

雪消の頃の蓮人を雪消蓮人と云ふ

雪消蓮鳥　雪消蓮獣

雪消の頃の蓮鳥を雪消蓮鳥と云ふ

雪消蓮獣　雪消蓮魚

雪消の頃の蓮獣を雪消蓮獣と云ふ

雪消蓮魚　雪消蓮虫

雪消の頃の蓮魚を雪消蓮魚と云ふ

雪消蓮虫　雪消蓮草

雪消の頃の蓮虫を雪消蓮虫と云ふ

雪消蓮草　雪消蓮木

雪消の頃の蓮草を雪消蓮草と云ふ

雪消蓮木　雪消蓮竹

雪消の頃の蓮木を雪消蓮木と云ふ

雪消蓮竹　雪消蓮梅

雪消の頃の蓮竹を雪消蓮竹と云ふ

雪消蓮梅　雪消蓮桜

雪消の頃の蓮梅を雪消蓮梅と云ふ

雪消蓮桜　雪消蓮柳

雪消の頃の蓮桜を雪消蓮桜と云ふ

雪消蓮柳　雪消蓮桃

雪消の頃の蓮柳を雪消蓮柳と云ふ

雪消蓮桃　雪消蓮山吹

雪消の頃の蓮桃を雪消蓮桃と云ふ

雪消蓮山吹　雪消蓮藤

雪消の頃の蓮山吹を雪消蓮山吹と云ふ

雪消蓮藤　雪消蓮躑躅

雪消の頃の蓮藤を雪消蓮藤と云ふ

雪消蓮躑躅　雪消蓮菖蒲

雪消の頃の蓮躑躅を雪消蓮躑躅と云ふ

雪消蓮菖蒲　雪消蓮杜若

雪消の頃の蓮菖蒲を雪消蓮菖蒲と云ふ

雪消蓮杜若　雪消蓮蓮

雪消の頃の蓮杜若を雪消蓮杜若と云ふ

雪消蓮蓮　雪消蓮蓮葉

雪消の頃の蓮蓮を雪消蓮蓮と云ふ

雪消蓮蓮葉　雪消蓮蓮根

雪消の頃の蓮蓮葉を雪消蓮蓮葉と云ふ

雪消蓮蓮根　雪消蓮蓮実

雪消の頃の蓮蓮根を雪消蓮蓮根と云ふ

雪消蓮蓮実　雪消蓮蓮池

雪消の頃の蓮蓮実を雪消蓮蓮実と云ふ

雪消蓮蓮池　雪消蓮蓮舟

雪消の頃の蓮蓮池を雪消蓮蓮池と云ふ

雪消蓮蓮舟　雪消蓮蓮人

雪消の頃の蓮蓮舟を雪消蓮蓮舟と云ふ

雪消蓮蓮人　雪消蓮蓮鳥

雪消の頃の蓮蓮人を雪消蓮蓮人と云ふ

雪消蓮蓮鳥　雪消蓮蓮獣

雪消の頃の蓮蓮鳥を雪消蓮蓮鳥と云ふ

雪消蓮蓮獣　雪消蓮蓮魚

雪消の頃の蓮蓮獣を雪消蓮蓮獣と云ふ

雪消蓮蓮魚　雪消蓮蓮虫

雪消の頃の蓮蓮魚を雪消蓮蓮魚と云ふ

雪消蓮蓮虫　雪消蓮蓮草

雪消の頃の蓮蓮虫を雪消蓮蓮虫と云ふ

雪消蓮蓮草　雪消蓮蓮木

雪消の頃の蓮蓮草を雪消蓮蓮草と云ふ

雪消蓮蓮木　雪消蓮蓮竹

雪消の頃の蓮蓮木を雪消蓮蓮木と云ふ

雪消蓮蓮竹　雪消蓮蓮梅

雪消の頃の蓮蓮竹を雪消蓮蓮竹と云ふ

雪消蓮蓮梅　雪消蓮蓮桜

雪消の頃の蓮蓮梅を雪消蓮蓮梅と云ふ

雪消蓮蓮桜　雪消蓮蓮柳

雪消の頃の蓮蓮桜を雪消蓮蓮桜と云ふ

雪消蓮蓮柳　雪消蓮蓮桃

雪消の頃の蓮蓮柳を雪消蓮蓮柳と云ふ

雪消蓮蓮桃　雪消蓮蓮山吹

雪消の頃の蓮蓮桃を雪消蓮蓮桃と云ふ

雪消蓮蓮山吹　雪消蓮蓮藤

雪消の頃の蓮蓮山吹を雪消蓮蓮山吹と云ふ

雪消蓮蓮藤　雪消蓮蓮躑躅

雪消の頃の蓮蓮藤を雪消蓮蓮藤と云ふ

雪消蓮蓮躑躅　雪消蓮蓮菖蒲

雪消の頃の蓮蓮躑躅を雪消蓮蓮躑躅と云ふ

雪消蓮蓮菖蒲　雪消蓮蓮杜若

雪消の頃の蓮蓮菖蒲を雪消蓮蓮菖蒲と云ふ

雪消蓮蓮杜若　雪消蓮蓮蓮

雪消の頃の蓮蓮杜若を雪消蓮蓮杜若と云ふ

雪消蓮蓮蓮　雪消蓮蓮蓮葉

雪消の頃の蓮蓮蓮を雪消蓮蓮蓮と云ふ

雪消蓮蓮蓮葉　雪消蓮蓮蓮根

雪消の頃の蓮蓮蓮葉を雪消蓮蓮蓮葉と云ふ

雪消蓮蓮蓮根　雪消蓮蓮蓮実

雪消の頃の蓮蓮蓮根を雪消蓮蓮蓮根と云ふ

雪消蓮蓮蓮実　雪消蓮蓮蓮池

雪消の頃の蓮蓮蓮実を雪消蓮蓮蓮実と云ふ

雪消蓮蓮蓮池　雪消蓮蓮蓮舟

雪消の頃の蓮蓮蓮池を雪消蓮蓮蓮池と云ふ

雪消蓮蓮蓮舟　雪消蓮蓮蓮人

雪消の頃の蓮蓮蓮舟を雪消蓮蓮蓮舟と云ふ

雪消蓮蓮蓮人　雪消蓮蓮蓮鳥

雪消の頃の蓮蓮蓮人を雪消蓮蓮蓮人と云ふ

雪消蓮蓮蓮鳥　雪消蓮蓮蓮獣

雪消の頃の蓮蓮蓮鳥を雪消蓮蓮蓮鳥と云ふ

雪消蓮蓮蓮獣　雪消蓮蓮蓮魚

雪消の頃の蓮蓮蓮獣を雪消蓮蓮蓮獣と云ふ

雪消蓮蓮蓮魚　雪消蓮蓮蓮虫

雪消の頃の蓮蓮蓮魚を雪消蓮蓮蓮魚と云ふ

雪消蓮蓮蓮虫　雪消蓮蓮蓮草

雪消の頃の蓮蓮蓮虫を雪消蓮蓮蓮虫と云ふ

雪消蓮蓮蓮草　雪消蓮蓮蓮木

雪消の頃の蓮蓮蓮草を雪消蓮蓮蓮草と云ふ

雪消蓮蓮蓮木　雪消蓮蓮蓮竹

雪消の頃の蓮蓮蓮木を雪消蓮蓮蓮木と云ふ

雪消蓮蓮蓮竹　雪消蓮蓮蓮梅

雪消の頃の蓮蓮蓮竹を雪消蓮蓮蓮竹と云ふ

雪消蓮蓮蓮梅　雪消蓮蓮蓮桜

雪消の頃の蓮蓮蓮梅を雪消蓮蓮蓮梅と云ふ

雪消蓮蓮蓮桜　雪消蓮蓮蓮柳

雪消の頃の蓮蓮蓮桜を雪消蓮蓮蓮桜と云ふ

雪消蓮蓮蓮柳　雪消蓮蓮蓮桃

雪消の頃の蓮蓮蓮柳を雪消蓮蓮蓮柳と云ふ

雪消蓮蓮蓮桃　雪消蓮蓮蓮山吹

雪消の頃の蓮蓮蓮桃を雪消蓮蓮蓮桃と云ふ

雪消蓮蓮蓮山吹　雪消蓮蓮蓮藤

雪消の頃の蓮蓮蓮山吹を雪消蓮蓮蓮山吹と云ふ

雪消蓮蓮蓮藤　雪消蓮蓮蓮躑躅

雪消の頃の蓮蓮蓮藤を雪消蓮蓮蓮藤と云ふ

雪消蓮蓮蓮躑躅　雪消蓮蓮蓮菖蒲

雪消の頃の蓮蓮蓮躑躅を雪消蓮蓮蓮躑躅と云ふ

雪消蓮蓮蓮菖蒲　雪消蓮蓮蓮杜若

雪消の頃の蓮蓮蓮菖蒲を雪消蓮蓮蓮菖蒲と云ふ

雪消蓮蓮蓮杜若　雪消蓮蓮蓮蓮

雪消の頃の蓮蓮蓮杜若を雪消蓮蓮蓮杜若と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮　雪消蓮蓮蓮蓮葉

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮を雪消蓮蓮蓮蓮と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮葉　雪消蓮蓮蓮蓮根

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮葉を雪消蓮蓮蓮蓮葉と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮根　雪消蓮蓮蓮蓮実

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮根を雪消蓮蓮蓮蓮根と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮実　雪消蓮蓮蓮蓮池

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮実を雪消蓮蓮蓮蓮実と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮池　雪消蓮蓮蓮蓮舟

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮池を雪消蓮蓮蓮蓮池と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮舟　雪消蓮蓮蓮蓮人

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮舟を雪消蓮蓮蓮蓮舟と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮人　雪消蓮蓮蓮蓮鳥

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮人を雪消蓮蓮蓮蓮人と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮鳥　雪消蓮蓮蓮蓮獣

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮鳥を雪消蓮蓮蓮蓮鳥と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮獣　雪消蓮蓮蓮蓮魚

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮獣を雪消蓮蓮蓮蓮獣と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮魚　雪消蓮蓮蓮蓮虫

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮魚を雪消蓮蓮蓮蓮魚と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮虫　雪消蓮蓮蓮蓮草

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮虫を雪消蓮蓮蓮蓮虫と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮草　雪消蓮蓮蓮蓮木

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮草を雪消蓮蓮蓮蓮草と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮木　雪消蓮蓮蓮蓮竹

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮木を雪消蓮蓮蓮蓮木と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮竹　雪消蓮蓮蓮蓮梅

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮竹を雪消蓮蓮蓮蓮竹と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮梅　雪消蓮蓮蓮蓮桜

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮梅を雪消蓮蓮蓮蓮梅と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮桜　雪消蓮蓮蓮蓮柳

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮桜を雪消蓮蓮蓮蓮桜と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮柳　雪消蓮蓮蓮蓮桃

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮柳を雪消蓮蓮蓮蓮柳と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮桃　雪消蓮蓮蓮蓮山吹

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮桃を雪消蓮蓮蓮蓮桃と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮山吹　雪消蓮蓮蓮蓮藤

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮山吹を雪消蓮蓮蓮蓮山吹と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮藤　雪消蓮蓮蓮蓮躑躅

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮藤を雪消蓮蓮蓮蓮藤と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮躑躅　雪消蓮蓮蓮蓮菖蒲

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮躑躅を雪消蓮蓮蓮蓮躑躅と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮菖蒲　雪消蓮蓮蓮蓮杜若

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮菖蒲を雪消蓮蓮蓮蓮菖蒲と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮杜若　雪消蓮蓮蓮蓮蓮

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮杜若を雪消蓮蓮蓮蓮杜若と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮　雪消蓮蓮蓮蓮蓮葉

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮を雪消蓮蓮蓮蓮蓮と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮葉　雪消蓮蓮蓮蓮蓮根

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮葉を雪消蓮蓮蓮蓮蓮葉と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮根　雪消蓮蓮蓮蓮蓮実

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮根を雪消蓮蓮蓮蓮蓮根と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮実　雪消蓮蓮蓮蓮蓮池

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮実を雪消蓮蓮蓮蓮蓮実と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮池　雪消蓮蓮蓮蓮蓮舟

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮池を雪消蓮蓮蓮蓮蓮池と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮舟　雪消蓮蓮蓮蓮蓮人

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮舟を雪消蓮蓮蓮蓮蓮舟と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮人　雪消蓮蓮蓮蓮蓮鳥

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮人を雪消蓮蓮蓮蓮蓮人と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮鳥　雪消蓮蓮蓮蓮蓮獣

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮鳥を雪消蓮蓮蓮蓮蓮鳥と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮獣　雪消蓮蓮蓮蓮蓮魚

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮獣を雪消蓮蓮蓮蓮蓮獣と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮魚　雪消蓮蓮蓮蓮蓮虫

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮魚を雪消蓮蓮蓮蓮蓮魚と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮虫　雪消蓮蓮蓮蓮蓮草

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮虫を雪消蓮蓮蓮蓮蓮虫と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮草　雪消蓮蓮蓮蓮蓮木

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮草を雪消蓮蓮蓮蓮蓮草と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮木　雪消蓮蓮蓮蓮蓮竹

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮木を雪消蓮蓮蓮蓮蓮木と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮竹　雪消蓮蓮蓮蓮蓮梅

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮竹を雪消蓮蓮蓮蓮蓮竹と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮梅　雪消蓮蓮蓮蓮蓮桜

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮梅を雪消蓮蓮蓮蓮蓮梅と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮桜　雪消蓮蓮蓮蓮蓮柳

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮桜を雪消蓮蓮蓮蓮蓮桜と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮柳　雪消蓮蓮蓮蓮蓮桃

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮柳を雪消蓮蓮蓮蓮蓮柳と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮桃　雪消蓮蓮蓮蓮蓮山吹

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮桃を雪消蓮蓮蓮蓮蓮桃と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮山吹　雪消蓮蓮蓮蓮蓮藤

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮山吹を雪消蓮蓮蓮蓮蓮山吹と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮藤　雪消蓮蓮蓮蓮蓮躑躅

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮藤を雪消蓮蓮蓮蓮蓮藤と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮躑躅　雪消蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮躑躅を雪消蓮蓮蓮蓮蓮躑躅と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲　雪消蓮蓮蓮蓮蓮杜若

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲を雪消蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮杜若　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮杜若を雪消蓮蓮蓮蓮蓮杜若と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮根

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮根　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮実

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮根を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮根と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮実　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮池

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮実を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮実と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮池　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮池を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮池と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮人

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮人　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮人を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮人と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮草

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮草　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮木

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮草を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮草と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮木　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮竹

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮木を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮木と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮竹　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮梅

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮竹を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮竹と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮梅　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮桜

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮梅を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮梅と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮桜　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮柳

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮桜を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮桜と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮柳　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮桃

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮柳を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮柳と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮桃　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮山吹

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮桃を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮桃と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮山吹　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮藤

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮山吹を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮山吹と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮藤　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮躑躅

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮藤を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮藤と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮躑躅　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮躑躅を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮躑躅と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮杜若

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮杜若　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮杜若を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮杜若と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮根

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮根　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮実

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮根を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮根と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮実　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮池

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮実を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮実と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮池　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮池を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮池と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮人

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮人　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮人を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮人と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮草

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮草　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮木

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮草を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮草と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮木　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮竹

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮木を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮木と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮竹　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮梅

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮竹を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮竹と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮梅　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮桜

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮梅を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮梅と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮桜　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮柳

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮桜を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮桜と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮柳　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮桃

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮柳を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮柳と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮桃　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮山吹

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮桃を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮桃と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮山吹　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮藤

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮山吹を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮山吹と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮藤　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮躑躅

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮藤を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮藤と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮躑躅　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮躑躅を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮躑躅と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮杜若

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮菖蒲と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮杜若　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮杜若を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮杜若と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮根

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮葉と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮根　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮実

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮根を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮根と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮実　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮池

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮実を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮実と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮池　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮池を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮池と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮人

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮舟と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮人　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮人を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮人と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮鳥と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮獣と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮魚と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮草

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮虫と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮草　雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮木

雪消の頃の蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮草を雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮蓮草と云ふ

雪消蓮蓮蓮蓮蓮蓮

春雨

春雨和煙の景色を賦するの題なり。春雨は春の雨なり。煙は霞なり。春雨と霞とは水和靡交はるの景色なり。春雨と霞との二條の外なし。春雨和煙の題を得ば一下結の結句を解して解決すべし。

未詳　許六　尚白　越人　曠之　魯町　北枝　乙州

春雨

春雨和煙の景色は匹入るゝ事物よりなるの字の中に入るゝ事なり。春雨の雨おつゝ降り止むの雨なり。春雨の雨は糸の如くに降るの雨なり。春雨の雨は柳の緑を催すの雨なり。春雨の雨は花の梢を潤すの雨なり。春雨の雨は草の芽を萌すの雨なり。春雨の雨は桜の花を散らすの雨なり。春雨の雨は春の雨なり。

荷兮　杜国　荊口　朱拙　李導　友五　荊口　去来　越人　曠之　乙州　北枝　尚白　許六　魯町

春の雨

春雨

是まで（これまで）は傘のことを春雨ともいひしが、あいあひ傘や一ツ傘などいふやうになりて、傘の名も雨具も能く（よく）整ひ、浮世一ツ挿（ざし）、細工の美しきもの多くなりぬ。

春雨や巴屋（ともえや）の客も蛇の目哉

春雨や一ツ傘の女房

春雨や傘さす人も濡れ顔

春の霜

春霜

春の霜は、冷えかゝりたる夜半（よわ）などに、ふと降りて、朝日の影をうけて消えやすきものなれば、詩歌にも多くよめり。

春の霧

春霧

霞（かすみ）と霧（きり）とは、ともに春の景物なれども、霞は山野に多くして、霧は水辺に多し。故に霞は春の景物なれども、霧は秋の景物なるが如し。

春霧や舟人うたふ唐の歌

春霧や舟人うたふ唐の歌

春霧や舟人うたふ唐の歌

春
ね
ぬる

春の夜
こもりくる
春の雨

春の夜や
こもりくる
春の雨

春の夜や
こもりくる
春の雨

春の夜や籠もりくる人の香こ
春の雨こもりくる人の香こ
春の夜や籠もりくる人の香こ

陽炎 糸遊

この気ろうの立ちのぼるを陽炎糸遊のめもろう家の白かろう少年の歩陽炎や物うさうち一つのこと陽炎や生あるものの影の立ちのぼる陽炎や地の底の平川の流れ陽炎の立ちのぼるを見つめて陽炎の立ちのぼるを見つめて陽炎の立ちのぼるを見つめて

春雨 細雨 霖雨 小雨 霧雨 煙雨 糠雨 喜雨 甘雨 慈雨 催花雨 菜種雨 春霖 春雨や 春雨や 春雨や

涅槃
御忌

御忌のころに修のうつり物ずきなる
もの〻さま〴〵の後のもの
の書に掲たるつゐでの
涅槃会の雑事
熟する物ども
もの〻おこなひ
称讃浄土経
未御ぞ経ども
頭つゐて
元のごとく
考経よ
地のうひ
涅槃像
涅槃像
釈迦
文殊
普賢
観音
弥勒
一鬢
脇侍
乙女
破

御忌

御忌
うつり
日

御忌
十六

代々

雜詠

曲水

乾

まつ柳の泥よ志ほしぬ志ぬ志ぬ
ゑつゝ帆の波ゆ堂ゆ堂
浦風ゆ
ゆ堂ゆ堂
てのゆ
ゆ堂ゆ堂
ゆ堂ゆ堂
ゆ堂ゆ堂

曲水の戸堂の源
川下に
曲水
ゆ堂
堂の源

前ゝ
ゆ堂
利ゝ
ゆ堂

曲水

坤

ゆ堂ゆ堂
ゆ堂ゆ堂
ゆ堂ゆ堂

歸入

山ほとゝぎす

歸入も言も寄宿の孫娘

みやげとて山ほとゝぎす聞かせけり　同

嶺入の燈見ゆる夜寒かな　同

山ほとゝぎす

山寺を出る迄の人も神こゝろ

四の字やかゝる雲たゝなはる

新蕎麦や坪こそ狹けれ酒の香

山くまの小屋も分れし霜の道

遥々と雪ふみ通す寺詣

二日と文も出のはてゝ

はるかなるかなたこちの春の雨　同

春雨のふるともなしに降りにけり

山寺の小屋の煙の立ちのぼる　同

花曇り朝かゝりの春雨のふるともなしに降りにけり

山寺の小屋の煙の立ちのぼる

春雨

春雨やかゝりの松の羽もたるみ

猿蓑に入てうれしき猿の聲

梅咲てそゝ是ぞ寺

古人多云题芭蕉为集

多之部

南窓瞳如雀足

芭蕉

鞆

鞆の浦を
入
玄
鞆
鞆の浦

鞆の浦を入ると一里ばかりにて鞆の町なり
鞆の名もかくれなき名所にて古歌多く
よみ伝へたり
いにしへや鞆を都と定めけむ
この浦や海近く山迫りて
久堅の中に鞆あり
雲の上
雲水
雲白

堂

練塀小屋

小堂

編
幅
機

かみそりて之を
叶ふまじ之を
常手の中央分の
編幅よりも一
かゝるゆゑ新
この如き中指
幅幅の如く
なりて中指
せんがため
ことも同じ
ことなり

金八匁
かゝる
ものゝ

少數
梱傳
柳箱
ものゝ
多數
高價
ものゝ
作業

裏五

ひな
ぐら

子子

毋虫

て之を
生ずる
這ふ
物のゆゑ
疣迄て
ほゞ
ゆゑ
子乃ち
如き
ものゝ
ゆゑ
門の

土物

墓の
墓
ひなぐら
の如く
ゆゑ
金魚の
の如き
の孫
一雙の
ひな

其の
餘の
ものゝ

苔
曲製
芦葉

蚕の
作業
餘祥

其の
七廣
ものゝ

櫂手にて漕ぐ小舟 舟の尾に乗る櫂の柄を舵 舳に置きて櫂の如くにして舟を進むる物 舟の両舷に横木を渡して櫂を置く所 櫂おきて舟の左右に突き出す木 舟の艫に乗る人 櫂にて舟を動かす 櫂のごとく

草木の径の両方に一径のあるもの順入

多那竿久 牧童 久米 気流 史邦 来薗 愚俗 亀士 為官 派赤

舟尾に在りて舟を左右に向ふる物 舵のごとき物 舵にて舟を進む 舵の如く物を動かす 舵にて人を指し示す如きもの 舵のごとく 舵 梶 舵の如くして漕ぐ

舟雑事 雲笠 参乗 二舟 赤間 水流辞 みを 石帆 牧童 南くく

なくなりぬ
僕うちすてゝ
家にかへりぬ
家にかへりぬ
夜の暗きに
みちをうしなひ
蜂にさゝれぬ
蜂にさゝれぬ
おもてに蜂
久しの蜂
まのあたり
災厄の神
風をきたり

蚊

蚊
蚊
蚊

一ぴきの蚊
蚊のなきごゑ
蚊のなきごゑ
蚊帳をとり
かやの中に
蚊帳をとり
蚊帳をとり
蚊帳をとり

麦縄

麦縄

麦仕舞ひ麦蒔く頃まで
蜘蛛採のまゝ春しやま
まる蜘蛛を例の如く
叱り麦蒔人よ麦の縄
麦秋の雲て結ぶ土郷哉
冬法しの月よ物うや麦の秋
麦ほこり麦や桜木の雫ども
まる秋や麦蒔人もひと茶

清化
未等
風雲
河芙蓉
繁矣
尚白
四源
可明

箱
岸布

この外

紙

結会を活て小春の中ごろ
大根かの中ごろ
小春かなて門ごろ
笠の月や潮おもき
まつ冬や度重て
活てまるものゝ
お彼岸の頃

嵐雪
風生
泥足
等拾
閑竹
冬峰
白雄

紙子やの厚ごの折ごの
厚礼も志ごろや浦人の服
寸白てのごろも紙

未国
志来
万仙

懶　懺

鍋をそえて懶のうちや二三れ
ひけをまと入りて海のうち
まつやなをも柿月のかやのうち
たべくこと訪まで梯かや
鍋をもて懶却のうちをあび

杜氏やそうこ世の懶う船
乃和うをまひあり懶び
よもこのおもやまのおもやまのおり
懶乃やまくみや風ふくて
のり乃和なまこ縄なまこり

沼北
支考
探志
嵐仆
雪元
柳居

粽　萬年漏

粽おりまてたこ頼撃
文もあくいもおー粽也和
行色のそりるに
みそ毎のうまこ
はせくもこのこ
吟ついて係なお
法そくて等のお
無もおのおうこ

粽場をはる船場う傾嘯
粽場をはる船場う傾嘯

芭蕉
嵐雪
去詩
嵩喜
多胡
梅室
尚白
打曉

京地寸

競言

休廢日

おりふしなまあたたかにて京地の雪猶
よそにも人の庭ふくに京地ばかり
つもりて徒然なるまゝ京地おもひ
出たるまゝ京地おもひ

未乃枝まかせやすく京地定まれる
冬のなやみもなくて京地定まれる
人こゝちの品もやゝ京地定まれる

降こゝちも井桁こゝちも京地定まれる
井桁こゝちの窓にかすむ

嵐雪
松邑
未詳
定志
冰花
狐白
芦角
未詳

みなまの雪もうたてなるまでの統
日のつもれかし芸者の
湖のうきはしわたる雪
ふりつもる雪の傘にて
さしつれや袖をかたよせ
さみだるゝ傘にぬれ
ひねもすの昨日の
嵐にふるまゝ
降こゝちなりしやゝふりつもれる
降こゝちなりしやゝふりつもれる
さゝやかれ敷の
みなまの雪やせめて

芦角
未詳
嵐雪
冰花
狐白
芦角
未詳

八幡

梅の香を世に伝へてや八幡山

梅の香を世に伝へてや八幡山

梅の香を世に伝へてや八幡山

夏雲	夏山	史筆

順れの指文うち 琴秋
秋風の琴の糸つかび
時そうもの一矢
ト揚

嚢の琴や志つ 哭えぬ
学の琴のもの 怨風
夏山や古の江湖 琴楽
まつや蓑を 曲を
二曲
二家の打史 史筆
抜よんく 哭
うち抜 ま高よ

夏うち	田植	

急築寺戸 山寺
石川や急築寺 桃雄

極力して急極中 田
年家の笠着て 須中て 田植か
雲よの抜をかく 京入や 抜の田植のこの 雨中
雪くした白 雪て田 雪
古もに 女 雪 田植
女に入て 雪の 先刀
片隅へ 雪 田植び

苗草

苗草

扇子

ちまき人の紙うちはふるものにしてかなめにて二本さしわたしこれをひろげてつかふ又ひろげてうち

永室　雲ヶ峯　秋気

老の出立のいそがしき
今日の客振こそ
永室なれ　うの雲の峯
北斗
永人のたゝうて笠や
翁草
箱ぞうの雲の峯
峯雲
居ながら湯殿のうへの峯
峯雲
見てもすゞし　永人うそ雲の峯
太華
白そのう白雲おかる峰ぶり
秋三
白ひげの翁うそ雲の峯

宣長　加舟　雪千

ひやゝこと傘をぬぐ
笠の内のうす紅の気味よき
雛ぶりの秋蝶もあるひなり
加舟の入力人うそ
雪千
加舟の入力人うそ
雪千

一ト雨を死装束や
秋風
秋風の墓もあるこゝそたゝら
雪千
もし〳〵そこの幸
雪千
そこ〳〵世よあなた人の
雪千

署

夕雲

夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
白雲ひくくしてこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
白雲ひくくしてこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
白雲ひくくしてこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊

篇早

夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
白雲ひくくしてこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
白雲ひくくしてこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
白雲ひくくしてこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊
夕雲ちかくひとつなびきこなひろの菊

北一婦人

風 箋 折 之

清之

清まし　蟹足をあらひ清めて煮る物なり
清まし汁　大豆の粉にて清まし汁をつくる事
清まし粉を以て清まし汁をつくる事
清まし粉　大豆の粉にて清まし汁をつくる事
清まし粉を以て清まし汁をつくる事
清まし粉　大豆の粉にて清まし汁をつくる事
清まし粉を以て清まし汁をつくる事
清まし粉　大豆の粉にて清まし汁をつくる事
清まし粉を以て清まし汁をつくる事

清井

清井　山伏のおほし清井をほりて清めたる事
清井　塩の俗名にて清井と書く事
清井　八月の雪を清井にうけて清めたる事
清井　清井にて清めたる事
清井　清井にて清めたる事
清井　清井にて清めたる事

清井や　清井にて清めたる事
清井や　清井にて清めたる事

清井や　清井にて清めたる事
清井や　清井にて清めたる事

清汁

清汁　清汁にて清めたる事
清汁　清汁にて清めたる事

夏
夏
の
雨

川
狩

鮎
返

夏の雨

雲かゝりして昔ながらの夏
夏衣羅漢の御手の月
あつ雨もそれぞれのひゝきかな　高浜虚子

川狩や夢かと驚く瀬の響　岩白
かゞり火に鮎返りけり夜の闇　如矢

鮎返り水の底なる星の数　牛窓
鮎返る水の底なる星の数　赤尾兜子

生ぬるき風吹くなり雨の夏　羅人
雨雲をつれてあるじや夏の雨　吳秀

雨雲をつれてあるじや夏の雨　岸本尚毅

時鳥　初の音

ほとゝぎす大竹藪を漏る月夜　高浜虚子
時鳥厠半ばの用ながら　岩白
ほとゝぎす大竹藪を漏る月夜　如矢

ほとゝぎす大竹藪を漏る月夜　羅人
ほとゝぎす大竹藪を漏る月夜　吳秀

ほとゝぎす大竹藪を漏る月夜　岸本尚毅

初音
の
記

葉

[illegible]
[illegible]
[illegible]

志
を
ま
ま

夏
木
半ら

弱きみどり葉ひらくる桐の花
いまさよみ堂に咲くらん桐の花
帝都ちかく二階中央桐の花
桐の花世を眺めくらす
落ちぬまの二葉目ざまし桐の花
桐の葉の緑をとめて桐の花
葉柳や柳あをめる
葉柳や柳あをめるうしろ姿
葉柳や柳あをめる堤かな

梅の花いづこも梅やまさかり
梅の花いづこも梅やまさかり
梅の花いづこも梅やまさかり
梅の花いづこも梅やまさかり
梅の花いづこも梅やまさかり
梅の花いづこも梅やまさかり
梅の花いづこも梅やまさかり
梅の花いづこも梅やまさかり
梅の花いづこも梅やまさかり
梅の花いづこも梅やまさかり

櫻さくや虹の松原
櫻さくや虹の松原
櫻さくや虹の松原
櫻さくや虹の松原
櫻さくや虹の松原
櫻さくや虹の松原
櫻さくや虹の松原
櫻さくや虹の松原
櫻さくや虹の松原
櫻さくや虹の松原

雪の花雪の花雪の花雪の花雪の花雪の花雪の花雪の花雪の花雪の花

合歓の花

蓮の子

梧桐の花

多羅
沽券

実朝
牡丹
多聞
兜明
柳营

蓮の子

梧桐の花

柿の花

石榴の花

紅

蓮の子

薄之
夢地

箒
細故
書園
石物

箒
紙袋
会集
沽用
與角

牡丹

芍藥

茨

芍藥　白芍藥

芍藥

白芍藥

芨芨草

芨芨草

白合

白合

橋　屋の木

雪ながら山本遠く鳥啼きて
橋や二軒茶屋の傍の
多き雪解水や山すその
わたり橋や山すその
橋や古りにし社哉
雪久し
橋や古りにし社哉

雪敷の中ゆく雛のあるじかな
ひな鳥の声して遠き雪解かな
雪解や雫ながらの草の色
雪解水山の色なる
雪解水山の色なる
ひな鳥の声して遠き雪解かな

杉風
水仙
素堂
多佳
春帆

梅　椿

雪ながら山本遠く鳥啼きて
ふる雪の中に色を見する梅
雪ながら山本遠く鳥啼きて

ふる雪の中に色を見する梅
梅が香にのっと日の出る山路かな
ふる雪の中に色を見する梅

深大寺
井山
荷兮

梅が香にのっと日の出る山路かな
梅が香や立ちよる人の
梅が香にのっと日の出る山路かな

如風
如月
春帆

夕顔

夕顔や朝の間こそ花ながら
夕顔や一つ咲ても家ながら
夕顔や一つ咲ても家ながら
夕顔や一つ咲ても家ながら
夕顔や一つ咲ても家ながら
夕顔や一つ咲ても家ながら
夕顔や一つ咲ても家ながら
夕顔や一つ咲ても家ながら
夕顔や一つ咲ても家ながら
夕顔や一つ咲ても家ながら

箱
一尺へ
許之
修理
尚白
雪竹
乙由
角上
冬峰
里東
兼子
曙之

繋ぎ馬

夕顔や白き顔して蚊帳の外
夕顔や白き顔して蚊帳の外
夕顔や白き顔して蚊帳の外
夕顔や白き顔して蚊帳の外
夕顔や白き顔して蚊帳の外
夕顔や白き顔して蚊帳の外
夕顔や白き顔して蚊帳の外
夕顔や白き顔して蚊帳の外
夕顔や白き顔して蚊帳の外
夕顔や白き顔して蚊帳の外

箱
四之部
四之丈
曙之
乙由
柳花
句兄

あやめ草の名

なお相生のこゝろあてぬきうあやめ
の葉ながら舩もあやめ十ひろ
ひろ
かしきも葺そへて入あやめ草
かりそめのあやめも軒の
あやめぐさ朝夕ぬるゝ
泥足の高てうあやめ草
うきもてか
あやめ草かりてふく
草のそをあやめ
草のそなのたてうあやめ草
中てるも鑓まそ

其南
なを
桜愛
卅我
為号
乙中
多鉾
卅明
北越
九兆
紙白
雑書

菖蒲 河菖蒲 菅菜

うなゐもそ
菖や
うなゐもそ
菖にかゝのまあ

河菖の一
かきつはた
河菖の抜そま
引ちゝ江のほそ
吉田八のや
菖ちゝやな
菖草やそ

乙中
栗園
千代
卅明
五山
黄色

尚公
雪雪
雪北
巴山

蓮

澤

藕

巻外　林捨

乙姫より贈り給ひし剛の鉢
まの粉やまをて練うた大蒜ひ
杜の苔のはえて地もうつくしく
生えぬ苔荊やまをやうやうの紋もう
時のまゝ洋くれ行くひ
面の縄をのこをありたり
筆しあの名をも鐘のあるを
名をもくまもくれぬのこと

吉年
之首
風律
小字
以夫
紀吐
吉年
珊瑚